

株主のみなさまへ

## 第102期 中間報告書

平成25年1月1日～平成25年6月30日

## シェル美術賞2013

唯一無二を紡ぎ出せ。



\*詳しくはシェル美術賞事務局へお問い合わせください。

TEL: 03-5225-0502

シェル美術賞は当社の社会貢献活動の中核として過去41回の開催を数え、現在「若手作家の登竜門」として広く認知されています。株主の皆様にも、この機会にぜひご鑑賞いただきたくご案内申し上げます。

### シェル美術賞2013 展覧会

会期

2013年12月11日(水)～12月23日(月・祝)

10:00～18:00 (入場は17:30まで)

12月17日(火) 休館

最終日～16:00 (入場は15:30まで)

会場

国立新美術館 (東京・六本木)

### 株式についてのご案内

期末配当基準日 毎年12月31日

中間配当基準日 毎年6月30日

定時株主総会 毎年3月

公告方法 電子公告 当社のホームページに掲載いたします。  
(<http://www.showa-shell.co.jp/koukoku/>)

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 (0120) 782-031 (フリーダイヤル)

特別口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 (0120) 288-324 (フリーダイヤル)

上場取引所 東京証券取引所

証券コード 5002

### 株主アンケートにご協力ください

当社では株主の皆様からのご意見を経営に活かし、IR情報の充実を図るため「株主アンケート」を実施しています。お手数ではございますが、同封の「株主アンケート」にご協力いただきたくお願い申し上げます。

(ホームページからのご回答も可能です。方法はアンケートハガキをご覧ください。)

※ご回答いただいた内容は、当社の「個人情報保護に関する基本方針」に基づき、適切に管理いたします。

ずっと走ろう。シェルと走ろう。  
**昭和シェル石油**  
<http://www.showa-shell.co.jp/>

〒135-8074  
東京都港区台場2丁目3番2号  
台場フロンティアビル

UD  
FONT



ずっと走ろう。シェルと走ろう。  
**昭和シェル石油**



## 連結決算のポイント

売上高	営業利益	経常利益	在庫評価の影響を除いた経常利益	四半期純利益
14,159 億円	432 億円	439 億円	229 億円	300 億円

- ▶ 売上高は1兆4,159億円となり、前年同期に比べ1,050億円の増収となりました。
- ▶ 経常利益は439億円となり、前年同期に比べ564億円の増益となりました。
- ▶ 在庫評価の影響を除いた経常利益は229億円となり、前年同期に比べ291億円の増益となりました。

※在庫評価の影響を除いた連結経常損益  
原油価格等が大きく上下する場合、当社グループの売上原価は、たな卸資産の在庫評価による影響を大きく受けます。そのため、在庫評価の影響を除いた場合の経常損益相当額を当社グループの実質的財務パフォーマンスを計る指標として使用しております。

	2013年 第2四半期 (累計)	2012年 第2四半期 (累計)	増減
売上高	14,159	13,108	1,050
営業利益	432	△108	541
経常利益	439	△125	564
在庫影響を除いた経常利益	229	△62	291
四半期純利益	300	△125	426
1株当たり四半期純利益 (円)	79.74	△33.43	113.17

## 目次

- 01 連結決算のポイント
- 02 株主の皆様へ
- 03 事業別の概況(連結)
- 05 トピックス・コラム
- 09 連結業績ハイライト
- 11 連結財務諸表
- 13 会社の状況
- 14 株式の状況

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社第102期中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

代表取締役会長 グループCEO

香藤繁博



当第2四半期連結累計期間(1-6月)の業績は、売上高1兆4,159億円(前年同期比1,050億円増収)、経常利益439億円(同564億円増益)、純利益300億円(同426億円増益)となりました。また、たな卸資産評価の影響を除いた場合の連結経常利益相当額は229億円(同291億円増益)となりました。

石油事業においては、国内経済持ち直しの兆しがみられる中、ガソリンおよび軽油を中心とした販売数量面では総じて堅調だったものの、第2四半期には販売競争激化により収益環境が悪化したしました。しかしながら、コスト削減や収益性の高い石油化学製品の生産最大化などに努めた結果、前年同期を大幅に上回る収益を確保することができました。

太陽電池事業においては、年初より収益性の高い国内市場への販売を大幅に拡大しつつ、世界最大級の生産能力を有する国富工場の生産ラインも最大稼働を継続しております。コスト低減も計画通りに進捗し、2011年の同工場竣工以来、2年で上半期黒字化を達成いたしました。電力事業に関しては、5月に東京ガス株式会社との共同出資天然ガス火力発電所「扇島パワーステーション」3号機が着工、また、既存の発電所も順調な稼働を続け、収益も安定的に推移しています。そして、新たな発電源として2011年に閉鎖した京浜製油所扇町工場跡地を利用したバイオマス発電所建設が決定しております。以上のように、太陽電池事業と電力事業からなるエネルギーソリューション事業においても中期経営アクションプランが着実に実行されつつあります。

配当につきましては、このたび太陽電池事業の収益改善がなされ、当社事業全体として今後も安定的な営業キャッシュ・フローが見込まれることから、当初見通しを上方修正し、中間配当を一株当たり18円、年間配当は同36円とさせていただく予定です。株主の皆様への安定的かつ魅力的な配当の実現に向けて引き続き取り組んでまいります。

また、お客様と社会に選ばれる持続可能なエネルギーカンパニーであり続けるため、以下の「4つのビッグゴール」を社員全員が共有し、強固な企業文化形成に向けた変革活動を進めてまいります。

「4つのビッグゴール」

- 1) 国内最高の収益性を持つ石油事業の確立
- 2) 海外市場で戦える競争力を有する太陽電池事業の構築
- 3) 部門の垣根を超え、高度に統合された社内体制の実現
- 4) 強いチーム意識を持ち、成功に導く高いスキルと意欲を持つ社員の育成

将来の持続的成長の実現に向け、このような活動を経営陣一丸となって推進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻ならびにご協力を賜りますようお願い申し上げます。

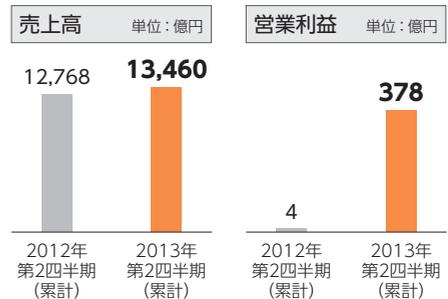
平成25年9月

石油事業



売上高 -----  
**13,460** 億円 前年同期比 **692** 億円 増収

営業利益 -----  
**378** 億円 前年同期比 **374** 億円 増益



当期の事業概況

石油事業においては、第1四半期は冬の旺盛な暖房用の灯油需要および堅調な石油化学製品マージンを確実に取り込むことにより、順調に収益を獲得することができました。第2四半期は一時的な販売競争激化によって全般的に国内燃料油マージンが低迷しましたが、引き続き収益性の高い石油化学製品の生産最大化や製品輸出の強化を行うなど、前四半期から減益となったものの、前年同期比では増益とすることができました。上半期累計の収益でも前年同期を大きく上回る結果となりました。

製造・供給面においては、6月中旬から実施した四日市製油所の法定定期修理を除いて、上半期は計画外停止もなくグループ3製油所はフル稼働を維持しました。

販売面では、比較的収益性の高い中間留分の販売を特約店と協働で積極的に行い、販売数量は前年対比で国内需要の伸び率を上回る結果となりました。また、新決済サービス「Shell EasyPay」および共通ポイントサービス「Ponta」の利用者も引き続き増加し、特に「Ponta」については他業種とのポイント相互利用の効果から新規のお客様来店に寄与するなど、リテール顧客基盤はさらに強固なものになっております。

潤滑油やアスファルトなどの付加価値製品についても、GTL (Gas To Liquids) を原料とし長寿命・省エネ効果に優れた潤滑油2種を発売するなど、お客様のニーズにきめ細かく対応した製品やサービス提供の強化を図っており、収益力向上に向けた活動を推進しております。

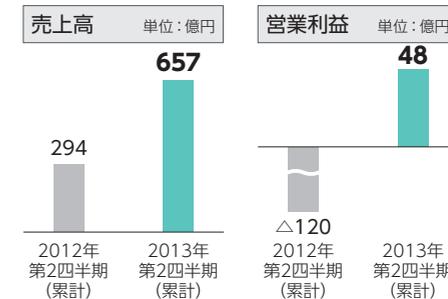
また、3月には東燃ゼネラル石油株式会社と供給面における相互最適化に関する協業の検討開始を発表いたしました。このような取り組みに加え、中期経営アクションプランに掲げたコスト削減に関し、石油事業として、2年前倒しし2015年までに260億円(2012年比)のコスト削減を目標としたプロジェクトを始動しました。当期においても少なくとも50億円の削減を見込んでおります。

エネルギーソリューション事業



売上高 -----  
**657** 億円 前年同期比 **363** 億円 増収

営業利益 -----  
**48** 億円 前年同期比 **168** 億円 増益



当期の事業概況

太陽電池事業においては、国内需要の伸びが非常に顕著であり、当社はこの需要増を確実に受注に繋げ、パネル販売に関し、現時点において来年年央までの受注残を抱えている状態となっております。電力事業も引き続き安定的な収益を維持し、結果としてエネルギーソリューション事業全体では、2012年第4四半期より3四半期連続の営業黒字化を果たし、増益基調を維持しております。

太陽電池事業では、主力工場の国富工場が年初よりフル稼働を維持、定期点検も計画より早期に完了し、安定的生産を継続しております。パネル一枚当たりの出力も着実に向上し、7月には正式な製品ラインナップとして過去最高の出力となる170W品「SF170-S」を発売しました。また、国富工場で生産される製品の最高値として179.8W(エネルギー変換効率14.6%)を記録するなど、一般的な多結晶シリコン系パネルに迫るレベルに向上しており、また、生産コストもW当たり年間20%低減の計画に沿って順調に推移しております。

販売面では、国内市場に注力した販売活動を展開し、株式会社日本政策投資銀行とともに共同投資会社「SFソーラーパワー」を設立、太陽光発電所を開発、建設、運営し、最終的に発電事業者や投資家へ販売するビジネスモデルの展開も開始し、その実践として既に複数の案件が決定、着工しております。

さらに、国内住宅向けに投入する最軽量・薄型モデル「Solacis neo」を11月より出荷開始することも決定しており、国内市場での販売規模拡大を加速し、最終的には世界市場への本格進出を視野に事業を進めております。

電力事業については、既存の発電所が安定的に稼働を続けるとともに、5月には扇島パワーステーション3号機が着工しました。また、新たな発電源メニューとして、木質ペレットを利用したバイオマス発電所の建設を決定し、石油、太陽電池に続く第3の事業の柱として電力事業を育成すべく取り組みを進めております。

## ◀ シェルグループの「人材による店舗力強化」プログラム ▶

## お客様満足向上のために人材力を磨く！

当社は系列特約店とともに、サービスステーション（SS）での販売技術・サービス向上を目的とした研修会、認定制度などの組織活動を活発に行っており、互いに切磋琢磨を続けるSSスタッフの人材力が、お客様満足向上のための重要な原動力となっています。

また、シェルグループは2006年より、SPATグローバルと呼ばれる「人材による店舗力向上」をサポートするプログラムを世界約60カ国で展開しており、世界共通のルールによりSS店舗力の向上を目的とするこのプログラムに、当社特約店も今年初めて参加しました。

バルセロナで開催された年間表彰イベントでは、世界を4つのエリアに区分し各エリア1位のリーダーが選出され、日本を含むエリアでは有限会社高山石油（群馬県 太田市）がその栄誉に輝きました。



## ◀ より安定的・効率的な供給を目的に ▶

## 東燃ゼネラル石油株式会社との協業に向けた検討を開始！

3月18日、当社と東燃ゼネラル石油株式会社は、石油製品供給体制に関する協業について検討を開始することを発表しました。石油事業環境が大きく変化する中で、より安定的かつ効率的な供給体制を構築するべく、以下の4点について協力、具体化を検討していきます。

- 1 川崎地区製油所における原料の融通拡大
- 2 原油船の共同運航
- 3 油槽所の共同運営
- 4 製品転送および交換（輸出入を含む）

当社と東燃ゼネラル石油株式会社とは、従前より川崎地区の製油所でパイプラインを経由した原料の融通や、全国各地の製油所・油槽所で製品の融通を行っており、今回の発表によって、さらなる協業体制の拡充を図るものです。

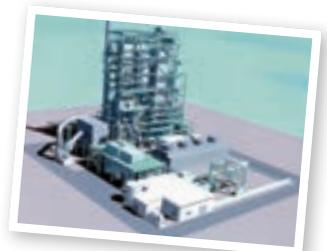
## ◀ 第3の事業の柱として育成 ▶

## バイオマス燃料とする火力発電所を建設！

当社は中期経営アクションプランにおいて、電力事業の規模拡大と発電源メニューの拡充を掲げ、石油事業、太陽電池事業に続く第3の柱への育成を図っています。このたびその一環として、バイオマス燃料とする火力発電所の建設を決定しました。

建設地は、当社が2011年に閉鎖した京浜製油所扇町工場の跡地であり、東京湾内という立地の良さ、製油所跡地のインフラおよびロジスティックなどの優位性も有しており、再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）が適用される案件です。

また、木質ペレット、パームヤシ殻といったバイオマス燃料を使用したクリーンな発電により、逼迫する国内電力需給の緩和に貢献するものです。



## コラム バイオマス燃料って？

今回、当社が参入するバイオマス火力発電は、CO<sub>2</sub>を吸収して成長する植物資源を燃料としており、ソーラー発電や風力発電などと同じくクリーンな発電です。太陽光や風力と異なり、出力が安定していることが利点であり、当社の発電所では燃料として、主に木質ペレットとパームヤシ殻を利用します。

## ● 木質ペレット

木を製材する際に出る木くずを燃料用に固形化したものです。欧州ではストーブ用燃料として広く普及していますが、昨今は発電用としても注目されています。現在は主に北米、欧州で生産されています。

## ● パームヤシ殻

パーム搾油工場でパーム果実の種から核油を搾油した後の殻です。パームヤシは主にインドネシア、マレーシアで生産されています。



木質ペレット



パームヤシ殻

## ◀ CIS技術の着実な進化と順調な販売規模拡大 ▶

## エネルギー変換効率14.6%実現と出荷量世界トップ10入り！

ソーラーフロンティアの国富工場において、179.8W（エネルギー変換効率14.6%）のCIS薄膜太陽電池モジュールの製造に成功しました。この14.6%というエネルギー変換効率は、現在市場で主流を占めている多結晶系シリコン太陽電池とほぼ同レベルであり、また、国富工場の生産ラインを使って生産できたことは、今後の大量生産実現へ向けた大きな一歩であります。

販売規模も順調に拡大を続けており、2013年第1四半期において製品出荷量世界トップ10入りを果たしました。（IHS社調べ）

このような技術の向上と販売規模拡大の強みをもって、国内市場での成長を加速し、世界市場への進出を図ります。



◀ ソーラー事業の付加価値提供と幅広い顧客層を支援 ▶

## ソーラーフロンティア、日本政策投資銀行と 「SFソーラーパワー」設立!

ソーラーフロンティアは、株式会社日本政策投資銀行とメガソーラープロジェクトへ資金提供するための共同投資会社「SFソーラーパワー」を設立しました。年間合計100メガワット規模のプロジェクトに出資することを目指し、日本国内のメガソーラープロジェクトが投資対象となります。

また、メガソーラープラントの建設から運転開始後の発電事業に至る全てのプロセスを一貫して手掛けることで、国内のメガソーラー需要へのスピーディーな対応を可能にします。

さらに、独立系発電事業者や投資家向けに、完工、稼働開始済みのプロジェクトを売却するビジネスモデルも推進し、太陽光発電市場での競争力を強化します。

### SFソーラーパワー案件の一部をご紹介します!

#### 関西国際空港内に約11.6MWの「KIXメガソーラー」建設へ

「KIXメガソーラー」は、約11.6MWの出力を持つ太陽光発電施設であり、アジアの空港としては最大級規模のメガソーラーになる予定です。



新関西国際空港株式会社が土地や建物を提供、ソーラーフロンティアがCIS薄膜太陽電池モジュールの提供およびメガソーラーの維持管理を行い、株式会社日本政策投資銀行が資金調達の支援をする3社の取り組みとなっています。

◀ KIXメガソーラー 完成予想イメージ

#### サントリーの3工場で計4.4MWの大規模太陽光発電所を設置

サントリーグループの有する九州熊本工場、高砂工場、榛名工場の3工場の屋根や敷地の一部においてメガソーラーの設置が決定されました。2014年春までに順次稼働する予定です。3工場合わせの総出力は約4.4MWにのぼり、ソーラーフロンティアのCIS薄膜太陽電池モジュール約2.8万枚が使用されます。



▲ SFソーラーパワー九州熊本第二発電所 完成予想イメージ

◀ ソーラーフロンティア製、CIS薄膜太陽電池モジュールの進化形 ▶

## 世界最軽量と過去最高出力の新製品2種を発売!

ソーラーフロンティアはCIS技術の研究開発から20年の節目に、CIS薄膜太陽電池モジュール新製品2種を発売します。これらの新製品投入をもって需要が旺盛な国内住宅用市場において、さらなる販売シェアの拡大と競争力強化に繋げていきます。

### 新製品をご紹介します!

#### 「Solacis neo (ソラシス・ネオ)」

世界最軽量でスマートフォン並みの薄さを実現

「Solacis neo (ソラシス・ネオ)」は、ソーラーフロンティアが開発した最先端CIS技術を駆使した住宅専用のモジュールで、スマートフォン並みの約6.5mmという圧倒的な薄さと、約8.0kgという従来よりも40%減の軽さを実現したことにより、これまで重量の問題で搭載できなかった屋根にも対応可能となります。また、フレームレスな形状によりデザイン性の高さや屋根へのフィット感を両立した製品です。

宮崎第2工場において2013年10月から生産開始、11月より出荷を予定しています。



#### 「SF170-S」 最高出力を誇るSFシリーズの最新型

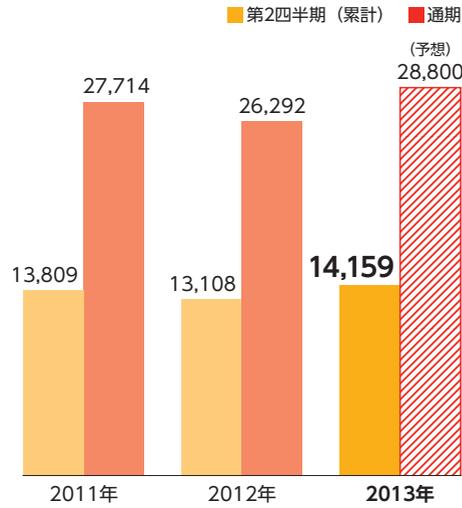
「SF170-S」は、ソーラーフロンティア製CIS薄膜太陽電池モジュールとして過去最高出力となる170Wを誇り、日本最大の太陽電池工場である国富工場で生産、2013年7月より出荷が開始されています。実発電量の多さが特徴のCIS薄膜太陽電池モジュールですが、今回さらにその性能を高めることに成功しました。

### 新製品発表会を開催しました!

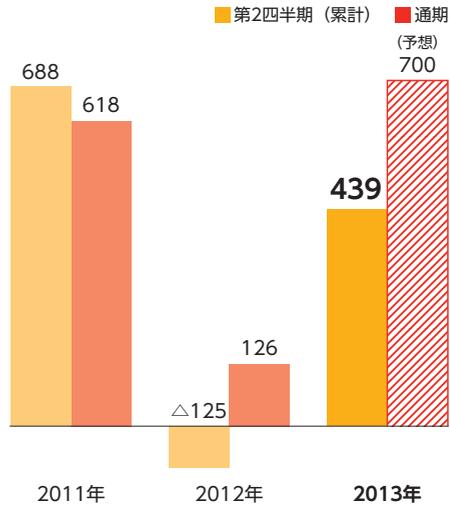
7月23日、都内で新製品発表会を開催しました。メディア向けの会見では、ソーラーフロンティアより、玉井社長をはじめとする役員が出席し、今回の日本の住宅向け新製品の利点について説明を行いました。



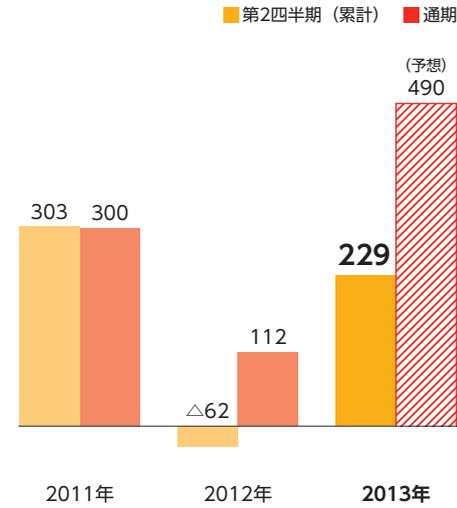
売上高 (単位:億円)



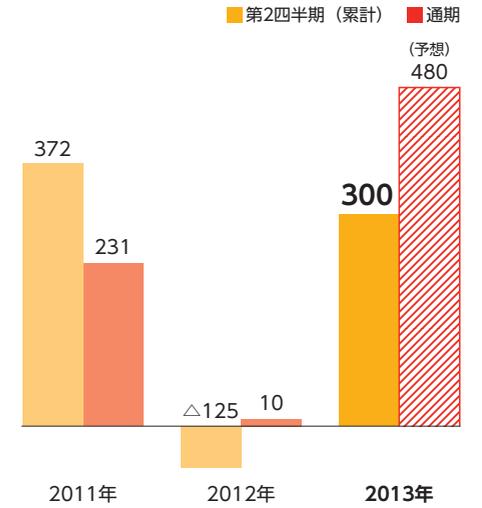
経常利益 (単位:億円)



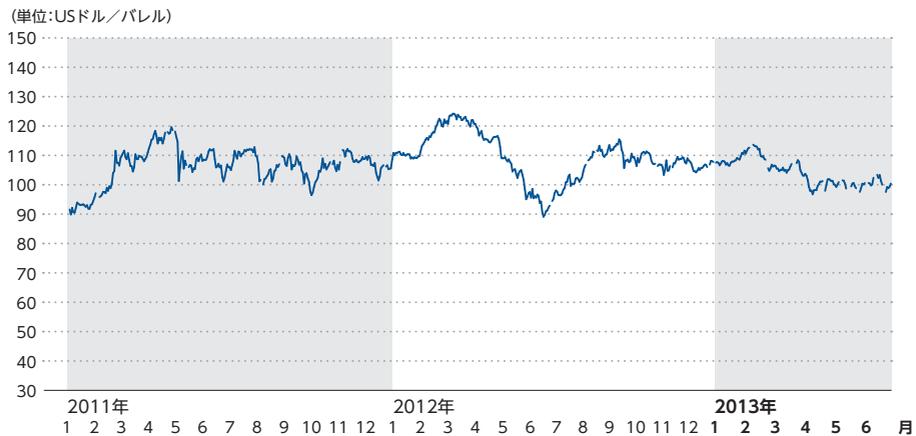
在庫評価の影響を除いた経常利益 (単位:億円)



四半期 (当期) 純利益 (単位:億円)

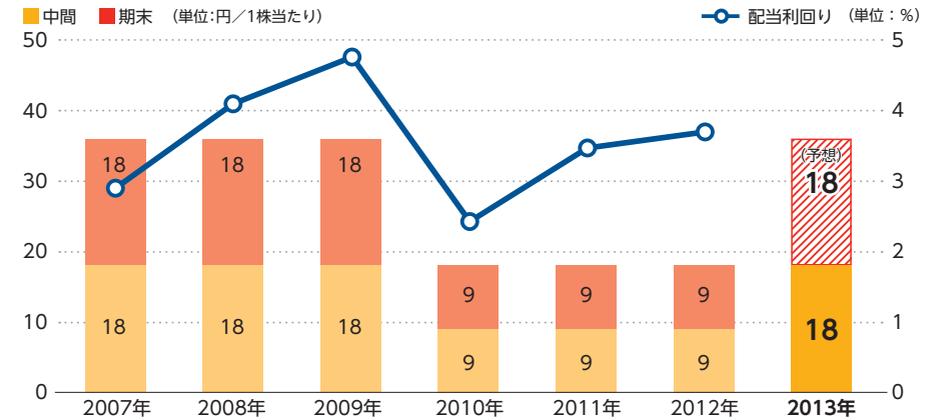


原油価格の推移



出典: Platts (ドバイ原油)

配当金と配当利回りの推移



科 目	当第2四半期末 (2013.6.30現在)	前 期 末 (2012.12.31現在)	前第2四半期末 (2012.6.30現在)
<b>資産の部</b>			
流動資産	643,212	711,325	618,108
固定資産	512,925	521,867	532,103
有形固定資産	420,626	430,662	441,842
無形固定資産	10,684	10,532	10,419
投資その他の資産	81,614	80,672	79,841
<b>資産合計</b>	<b>1,156,137</b>	<b>1,233,193</b>	<b>1,150,211</b>
<b>負債の部</b>			
流動負債	593,126	682,297	616,055
固定負債	261,076	277,111	270,626
<b>負債合計</b>	<b>854,202</b>	<b>959,409</b>	<b>886,681</b>
<b>純資産の部</b>			
株主資本	276,016	249,375	239,327
資本金	34,197	34,197	34,197
資本剰余金	22,113	22,113	22,113
利益剰余金	219,890	193,250	183,201
自己株式	△ 185	△ 184	△ 184
その他の包括利益累計額	1,514	450	699
少数株主持分	24,404	23,957	23,503
<b>純資産合計</b>	<b>301,934</b>	<b>273,783</b>	<b>263,530</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>1,156,137</b>	<b>1,233,193</b>	<b>1,150,211</b>

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

科 目	当第2四半期(累計) (2013.1.1から 2013.6.30まで)	前第2四半期(累計) (2012.1.1から 2012.6.30まで)	前 期 (2012.1.1から 2012.12.31まで)
売上高	1,415,903	1,310,887	2,629,261
売上原価	1,307,171	1,257,682	2,481,144
<b>売上総利益</b>	<b>108,731</b>	<b>53,205</b>	<b>148,117</b>
販売費及び一般管理費	65,476	64,080	133,419
<b>営業利益または営業損失(△)</b>	<b>43,255</b>	<b>△ 10,875</b>	<b>14,697</b>
営業外収益	3,416	2,697	5,161
営業外費用	2,695	4,323	7,183
<b>経常利益または経常損失(△)</b>	<b>43,976</b>	<b>△ 12,501</b>	<b>12,674</b>
特別利益	5,215	3,350	3,998
特別損失	2,488	2,240	4,293
税金等調整前四半期(当期)純利益または純損失(△)	46,703	△ 11,391	12,379
法人税、住民税及び事業税	14,669	1,897	8,163
法人税等調整額	1,074	△ 1,698	1,744
少数株主損益調整前四半期(当期)純利益または純損失(△)	30,959	△ 11,591	2,470
少数株主利益	928	999	1,457
<b>四半期(当期)純利益または純損失(△)</b>	<b>30,031</b>	<b>△ 12,590</b>	<b>1,013</b>

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

科 目	当第2四半期(累計) (2013.1.1から 2013.6.30まで)	前第2四半期(累計) (2012.1.1から 2012.6.30まで)	前 期 (2012.1.1から 2012.12.31まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	45,634	△ 3,840	41,922
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 12,164	△ 8,546	△ 17,747
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 38,730	13,878	△ 21,391
現金及び現金同等物の増減額	△ 5,260	1,491	2,783
現金及び現金同等物の期首残高	16,979	14,466	14,466
その他増減額	—	—	△ 270
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	11,718	15,958	16,979

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

IR情報

当社はIR情報を主にホームページ内の「株主・投資家情報」に掲載しております。本年は「中期経営アクションプラン」の実行初年度となることから、新井代表取締役グループCOOより、プラン策定の背景や各事業の目標および概況などを説明したインタビュー動画を公開しています。

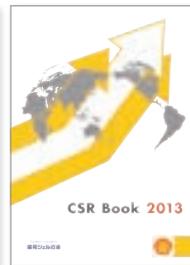
また、昨年からの取り組みとして、従来の「アニュアルレポート」および「サステナビリティ・レポート」を統合した「コーポレートレポート2013」を発行しました。「中期経営アクションプラン」を中心に、経営陣のメッセージ、事業概況、地域貢献活動やコーポレートガバナンスなど、当社に関する幅広い内容を網羅した一冊となっています。加えて、CSR情報の詳細を掲載した「CSR Book 2013」もホームページ上にて公開しています。



当社ホームページ「株主・投資家情報」  
<http://www.showa-shell.co.jp/ir/index.html>



コーポレートレポート 2013



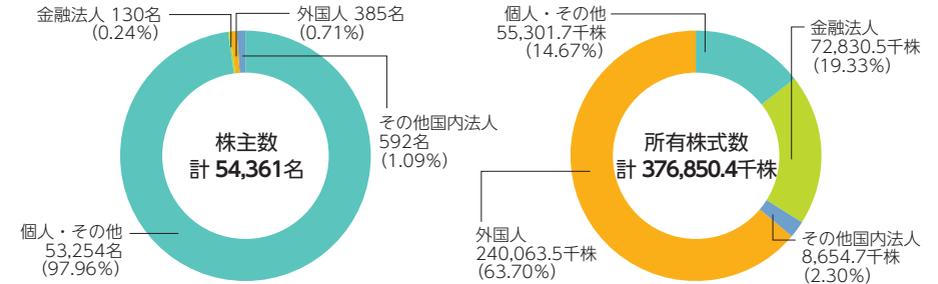
CSR Book 2013 (ホームページ掲載)

役員状況 (2013年9月1日現在)

代表取締役会長 グループCEO	香藤 繁常	執行役員副社長 エネルギーソリューション事業COO	玉井 裕人
代表取締役 グループCOO	新井 純	執行役員副社長 石油事業COO	亀岡 剛
取締役 グループCFO	ダグラス・ウッド	専務執行役員	平野 敦彦
取締役	宮内 義彦	専務執行役員	岡田 智典
取締役	増田 幸央	常務執行役員	濱元 節
取締役	アマド・オー・アルコウェイター	常務執行役員	伊藤 智明
取締役	武田 稔	常務執行役員	井上 由理
取締役	チュウ・ナン・ヨン	常務執行役員	新留 加津昭
常勤監査役	福地 唯三	常務執行役員	ブルックス・ヘリング
常勤監査役	山田 清孝	執行役員	小林 正幸
監査役	宮崎 緑	執行役員	吉岡 勉
監査役	山岸 憲司	執行役員	村田 浩幸
		執行役員	森下 健一
		執行役員	鈴木 達也
		執行役員	栗谷川 悟
		執行役員	阿部 真
		執行役員	渡辺 宏

(注) 1. 取締役宮内義彦、増田幸央、アマド・オー・アルコウェイター、武田稔およびチュウ・ナン・ヨンは、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。  
 2. 監査役宮崎緑および山岸憲司は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

所有者別の分布 (2013年6月30日現在)



大株主(上位10名) (2013年6月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ザ・シェル・ペトロリウム・カンパニー・リミテッド	125,261.2	33.24
アラムコ・オーバーシーズ・カンパニー・ビー・ヴィ	56,380.0	14.96
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	18,035.7	4.79
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	15,812.2	4.20
ザ・アングロサクソン・ペトロリウム・カンパニー・リミテッド	6,784.0	1.80
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	3,258.8	0.86
ドイツ証券株式会社	2,779.6	0.74
ビービーエイチ ポストン ジーエムオー インターナショナル イントリンシツク パリユー	2,431.8	0.65
野村證券株式会社	2,139.8	0.57
BNPパリバ証券株式会社	2,104.6	0.56

株価・売買高の推移

